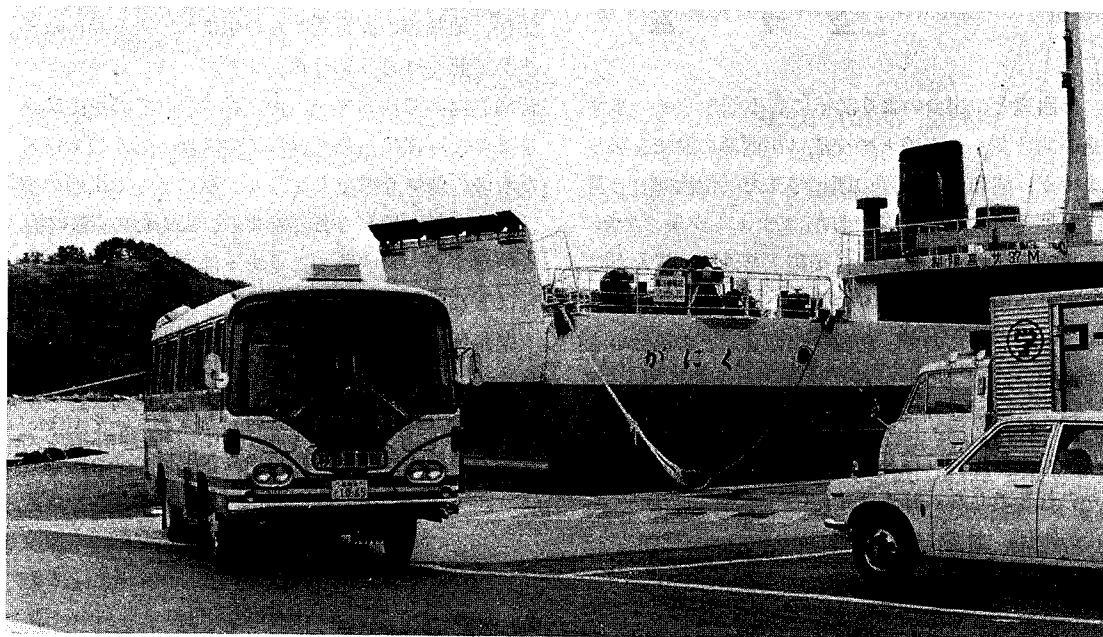


図書報だより

号数 第 27 号
発行日 昭和 49 年 9 月 1 日
編集発行 島根県立図書館
松江市内中原町 52
TEL (0852) 22-5725
印刷 (有) 高浜印刷所



海を渡ったしまね号

自動車文庫の隠岐巡回に想う

自動車文庫「しまね号」が、辺地住民の読書生活の充実を願って動きはじめてから、すでに20年になるという。

ところで、ここ隠岐では近年になって、そのすぐれた観光資源を売りものに、一躍観光地として、注目を集めるようになってはきたが、こと図書館行政の上からは完全に孤立し、日陰的存在となっていたことは事実である。

ちなみに、島後には分館、島前にモデル文庫が置かれているとはいえ、図書数にも、利用条件にも恵まれず、住民の読書要求など満たされようはずもなかった。

それだけに、今回の隠岐巡回は大きな期待をもって迎えられたといつてよい。

ともあれ、五月の隠岐初乗入れは、折しもの雨天に阻まれ、決して満足すべき結果とはなり得なかった。しかし、期待の図書を満載しさっそうと巡回を続ける「しまね号」を訪れる一人一人が、眼をかがやかせ、自らの手で興味深く選書する情景は、見るからにすがすがしく、関係者をひとしお喜ばせてくれた。しかも二千冊に及ぶ大量の図書が当地に配本され、利用されはじめた意味は実に大きい。

いづれにせよ、これを機会に、今までどちらかといえば高嶺の花にすぎなかった「島根県立図書館」が、より身近かなものとなり、住民の心の中に新たなイメージをもって迎えられはじめたといつてよい。

やがて、観光シーズンも終盤となり、さわやかな秋風がこの隠岐に立ち始める頃、第二回目の巡回がはじまる。回を重ねるごとに、この企画の意味が島民の中に深く浸透し、実を結ぶことを折りながら、関係者が一体となって新しい動きを創りたいものである。

隠岐島前教育委員会 中 林 弘

出西窯と私

金津 滋

出西窯との出会いより30年になろうとしています。その間数多くの人達との交流は出西窯の歴史を彩りますが、昭和23年初夏の頃には未だ「出西窯」と言う名称さえありませんでした。

当時松江にあった、松江美術工芸学院に学んだことが私の現在のすべてを左右した、ターニング・ポイントとなったので、勿論「出西窯」との出会いもその縁の糸の一つでした。

様々な縁で結び付けられた五人の人達とそのメンバーで、当世風に言えば成人式がすんだかすまないかの若さでした。私も二十代の半ば、本当に今から思えば夢の様な昔のことです。憑かれたような私の「出西窯」通いが始まりました。月の半ばを越す訪れでした。幾晩も幾晩もの討論があきることなくくり返されました。



私の未熟な民芸論に結果的には賛成してくれたの現在の路線の始まるまでに何年も要したことでしょうか。そして現在に及びます。

窯も現在で三ツ目、場所もそれぞれに変わりました。仕事場も当然三遷、立派になりました。

当今のような陶芸ブームが訪れ、日本中に陶工が溢れ、新窯が雨後の筍のように築かれ、素人の土いじりが盛んになったのは未曾有のことです。

その余波は、出西窯、にも及び七人の仲間とその他にそれに数を同じくするだけの手伝いの人達、窯出しの度に訪れる人の数も少なくありません。将に我世の春です。

何人かの仲間です仕事は難かしいものです。一人一人の個性なり、考えが異っている以上決して

一つの枠の中で、平等であり、均一であるはずがないのです。その現実を見極めることがそんなにむづかしいものなのでしょう。

所詮この世は上手に妥協できるものの勝利なのでしょう。私の一生の内の大事な時期の半分以上を過ごした出西の窯の仕事の現実を私は筆にすることさえ恐れが先に立ちます。

地元の土を生まれ変らす錬金術をもって、黒釉や飴釉、地釉等の衣を着せられ生まれて来る品の数々、決して悪くはありません。

皆様もほめて頂きます。が、私は決して満足ではありません。窯出しのたびにこの次はと思うのもほれたものの弱味なのでしょう。私にとって出西の窯はほれたり、ほれられたりする、二人称の存在ではないはずで、一人称でこそあるはず。ですから私はきびしさを求めます。

閑話休題——過去を責めることは易く、未来を予見することは難しいことです。島根の県花——牡丹、のように大輪に花咲くことのできるよう、そして、今までの三十年がそのための良き肥料となるように

私は祈ります。グループの仕事が本当に立派であると言われる日が来ることを鶴首します。

物買って来る。自分買って来る、と郷土の大先達の陶匠、河井寛次郎先生は言われましたが、それは物を造る人達にも当てはまるは

ずです。

物作る。自分造っている、のです。

仕事をする喜びのない仕事ぐらい、無駄で空しいものはありません。自分を燃やし尽して物を造ることのできる人は幸です。それは他に求めるものでなく、自分自身の問題でははずです。くらしが花咲く人と、くらしが花咲かぬ人と、同じ人でありながら、天地雲泥の差とはこのことを言うのでしょうか。どうか私が君達をこの道に引き摺り込んだことで、ほぞをかむ思いをしなくてすむような仕事を祈ります。

くめどもつきぬ泉の水をくむ思いしながらの毎日毎日が、何時しかに花くくみて、花開くのです。陶芸に素人の私は、陶芸についての苦言は蛇足にし

かすぎません。私が公開の文章でこんなことを書くのも始めの終りと思います。君達の喜びにならなくても、私自身の喜びであっても結構です。少しでもより良い仕事を祈ります。

あの自然に恵まれた環境の中で明け暮れる君達のくらしはうらやましきの限りですが、私は三十年に
なんなんとする君達の友情に涙するばかりです。

暴言多謝

~~~~~ 島根郷土資料刊行会よりおしらせ ~~~~~

## 出雲藩山論史料全5集完結迫る!!

- |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第1集</b> 鳴根郡森山村と伯州浜之目七ヶ村柴草山差<br/>縫関係<br/>243頁 2,500円</p> <p><b>第2集</b> 鳴根郡邑生・別所両村草刈山之儀に付、枕<br/>木山華蔵寺との差縫関係<br/>239頁 2,700円</p> <p><b>第3集</b> 鳴根郡講武村山論史料<br/>250頁 2,700円</p> | <p><b>第4集</b> 楯縫郡口宇賀、奥宇賀、美談三ヶ村山論関<br/>係<br/>242頁 2,900円</p> <p><b>第5集</b> 千家・鷺浦山境出入一途史料<br/>231頁 10月刊行予定 3,000円</p> <p>以上5集をもって完結します。<br/>現在5冊セットでも入手できますのでお知らせしま<br/>す。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 「出雲藩山論史料集」第四集 (解説)

- (1)楯縫郡(口宇賀・奥宇賀)両村山論関係史料
- (2)楯縫部(口宇賀・美談)両村山論関係史料
- (3)神門郡遥壺村草山出入関係史料

「出雲藩山論史料集」第一・二・三集につづくこの第四集も、江戸中期以降すなわち、宝暦から文化年間にかけて今の島根県簸川平野の農村が、田畑の肥料供給源を島根半島北山にもとめてきたこと、否、もとめなければならなかった宿命ともいべき、平野部農村と山村部落との間におきた下草刈をめぐる確執を解明する史料集である。この争論の経過を物語る資料源は、さきの第一・二・三集と同様、先年県立図書館が入手した島根県警察本部からの御徒文書中の山論関係文書群である。

穀倉簸川平野の各農村は、元来、斐伊川の沖積作用によってでき上った無機質土壌地帯で農耕を行なわなければならないもっとも劣悪な状態におかれた農村地帯であった。この悪条件を克服して藩からの苛斂誅求に應えるためには、どうしても土を肥やさなければならなかった。「壤」という文字は「土を養う、からしてこれを「コヤシ」と読ませる。この壤をつくるため

には山の下草を必要とする。そこに各村競って下草刈に精出さなければならなかった理由がある。ときには、必要悪としてでも他村権益の区域へ入り込んだり、ときには幼木を故意にか、刈り伐ることもあった。またこのような刈草区域は概ね、日時をきめて入会ったり、あるいは、互いに区域を接する権益を他村にもとめることとなる。これが、所謂入会山(入合山、入相山)と呼ばれるものである。近世中期以降、この種の山論は全国いたる所でくり展げられている。入会山をめぐる諸研究は早くから行なわ

れてきたのであるが、当刊行会がとりあげた「出雲藩山論史料集」ほど多くの資料を所収して、その一部始終を解明したものは他にはないものと思う。この第四集だけでも九十点の一枚もの、壘物、冊子等である。事件の全貌をするためにはこの上もなく、よく纏った資料群である。既刊の第一・二・三集及近刊

朝日新聞松江支局編

### うつろいの影

——宍道湖と笹ヶ谷

朝日新聞島根版に連載、大きな反響を呼んだ「ああ、宍道湖」(三部作)と、「まぼろしの鉤山——笹ヶ谷、その繁栄とおん念」を1冊にまとめたもの。新聞記者の冷徹な目が、今までほとんどとりあげられなかった島根の公害関係に、鋭くそそがれている。

B 6版 222頁 1,000円 9月刊行

第五集とともに繙読されるならば、出雲国島根半島に発生した、多くの入会山紛争の凡てを知ることができよう。

# 「しまね号」はじめて隠岐へ行く!!

## 「しまね号」を迎えて

都万村老人福祉センター 高宮 清造

名実共に、誠に結構な島根県立図書館がありながら、私達離島に住む隠岐島民にとっては、およそ縁遠い図書館の感をもって、今日に至りましたが、今年度からいよいよ自動車文庫「しまね号」が島内を巡回する運びとなりましたことは、隠岐島民にとりまして誠に喜ばしいことでもあります。

図書館長さんをはじめ、関係職員の方々の深い御理解と御厚意に対し、この紙上を通じて衷心より厚く御礼を申し上げたいと存じます。

私達が日常の生活の中で、あらゆる知識を向上させるとともに、交友を深め、心にやすらぎをもたらすものは読書ではなかろうかと私は考えております。

御承知のとおり、都万村は東西約27kmに走る地形に集落が散在しており、交通の便も必ずしも恵まれているとはいえない辺地であります。

折角の御厚意により、はじめて訪れた「しまね号」は役場前唯一ヶ所の巡回のみでは、その周辺の人達に限られ、交通便等の関係から周辺以外の人達はだれ一人として利用できなかったのが、はじめて、「しまね号」を迎えた当日の状況でありました。

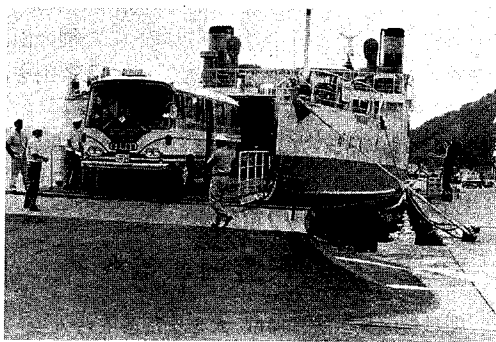
都万村は幸い昨年六月に開館された老人福祉センターがあります。年間延約四千人の会合等の利用者がありセンター館内に設けられている図書室には、巡回毎に貸出図書をお預りして館内における自由読書あるいは必要に応じて随時貸出を行っています。

県立図書館の認識を広く深めることと、読書の本

来の目的をはたすには、隠岐島内における巡回日程等の関係から無理難題かと存じますが、一町村あたり二ヶ所乃至三ヶ所程度の巡回日程が是非必要ではなかろうかと存じますので、御一考を願いたいと存じます。

何分はじめての自動車文庫の隠岐島巡回でありますので、今後より一層の充実した巡回を行なう上には、時には苦勞、時にはこの業務に携わるものとしての喜び、あるいは反省しなければならないこと、問題は山積するものと思っています。

いずれにいたしましても、広く島民から親しまれ、愛される自動車文庫「しまね号」として、秋の稲穂のように、実りある「しまね号」に島民こぞって育てていかなければならないと考えるものであります。末筆にあたり、図書館長さんをはじめ関係職員の方々の御健勝をお祈りするとともに今後一層の御指導御支援を、よろしくお願いを申し上げまして、巡回文庫「しまね号」を迎えての所感といたします。



# 「しまね号」に同乗して

島根県立図書館次長 平野 徹

私は、本年4月1日付で県立図書館次長に命ぜられ、初めて隠岐巡回自動車文庫「しまね号」に同乗する機会を得た。

5月20日フェリー「くにが」に自動車を積み8時に七類港を出航したが、波は比較的穏やかで、一行4名船酔いすることもなく無事菱浦港に13時過ぎに着いた。

早速自動車を降ろし、菱浦公民館付近の空地に駐車し、隠岐島初の自動車文庫を開いた。初めての自動車文庫であるから、さぞかし多くの人々に集ってもらえるものと期待したが、折り悪しく雨が激しく降り出したためか、菱浦では一寸出足が悪かった。しかし、崎、海士中央公民館では、激しい雨の中にもかかわらず、かなり多くの方々に利用していただき初日としては、成功ではなかったかと大いに気を良くした。

自動車文庫を隠岐で開くこと、また、図書配本することによって、それだけ隠岐の人たちに喜ばれ、読書に対する関心が深まれば誠に結構なことであると思う。

宿に入っても依然として雨が激しく、風も出てきたので、翌日からの日程が危ぶまれたが、翌朝には風雨ともすっかりおさまっており安心した。朝が早いというので、おにぎりを作ってもらい、赤之江の民家で食べた。

2日目は、西ノ島町赤之江、浦郷・小向・物井と巡回したが、ここではかなり多くの方に利用していただきありがたかった。

しかし、14時には、島後に渡る計画なので、時計を見ながらの作業で、時間的に余裕が少なく、西ノ島町の方には、十分満足して頂けなかったと思う。

西郷町では、予想どおり、身動きもできないほどの盛況で閉鎖予定時間を30分ほど延長して便宜を計った。

3日目は、都万(ここでは約100人ほどの方の利用を得た。)五箇・中村の三箇所を。4日目は、布施一箇所の巡回なので、また、道路も思ったより良く改良されていたので、両日とも時間的に余裕ができて、水若酢神社、隠岐郷土館・国分寺跡および美しい海、海岸等を観光することができた。

(私としては初めてなので、もう一度家族連れでゆっくりと観光したい。)

小・中学校付近で、開設した処は珍しい関係もあってか、児童生徒が多く集まり賑った。

また、数ヶ所の地区では、熱心な方がおられてよくこ

もたちの面倒をみたり、ご婦人の方に色々指導しておられ、本当にありがたく、うれしく思った。

このような機会(今年は年3回)に、こどもの読書欲が深まり、さらに、一層一般の方々の読書熱も高まって、人生がより一層ゆたかになれば、これほどすばらしいことはない、つくづく感じた。

今後益々自動車文庫を愛され、多く利用していただきたいと願ってやまない。

なお、巡回自動車文庫の利用状況は、下表のとおりである。



第1回隠岐島自動車文庫巡回表

|                | 配 本 所      | 予定した駐車時間    | 参集者数 | 配本数  | 備 考                      |
|----------------|------------|-------------|------|------|--------------------------|
| 1 日 目<br>(20日) | 菱浦地区公民館    | 13:00~14:10 | 約5人  | 100冊 | 七類港発 8:00<br>菱浦港着 13:00  |
|                | 崎地区公民館     | 15:00~15:40 | 30   | 100  |                          |
|                | 海士町中央公民館   | 16:00~17:00 | 15   | 150  |                          |
| 2 日 目<br>(21日) | 赤之江公会堂     | 8:30~9:10   | 30   | 102  | 菱浦港発 7:15<br>別府港着 7:40   |
|                | 西ノ島中央公民館   | 9:40~10:20  | 10   | 100  |                          |
|                | 小向地区公民館    | 10:50~11:30 | 40   | 140  | 別府港発 14:30<br>西郷港着 15:40 |
|                | 物井公会堂      | 12:30~13:00 | 10   | 99   |                          |
|                | 西郷町中央公民館   | 16:00~16:40 | 50   | 150  |                          |
| 3 日 目<br>(22日) | 都万老人福祉センター | 10:00~10:40 | 100  | 150  | (水若酢神社境内で開設)             |
|                | 郡児童館       | 13:00~13:40 | 10   | 150  |                          |
|                | 西郷町中村出張所   | 15:00~15:40 | 15   | 150  |                          |
| 4 日 目<br>(23日) | 布施児童館      | 10:00~10:40 | 60   | 150  | 西郷港発 16:40<br>七類港着 19:10 |

# 新刊図書紹介

## 子どもの本の選び方・与え方

「読書の世界」は楽しい世界です。この喜びにみちみちた世界を知らずに過ごしている子どもは、ほかの子どもよりつまらない人生を送っていることになります。ひとりでも多くの子どもに、この楽しみを知らせてやりたいものです。

この本は、子どもにいい本を、子どもに読書の習慣をと願う方々におすすめます。

この本の構成は、第1章なぜ子どもに本をすすめるか。

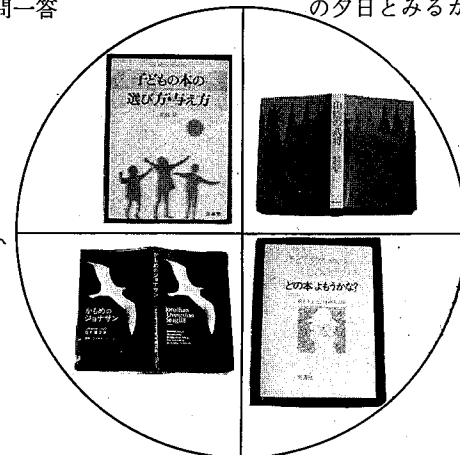
- 第2章 子どもの本の世界
- 第3章 子どもの本の選び方
- 第4章 子どもの本の与え方
- 第5章 子どもの本 一問一答
- 第6章 私のすすめたい  
子どもの本 111冊

鳥越信著  
三省堂 750円

## かもめのジョナサン

生まれながらに飛行が何よりも好きなカモメのジョナサン。仲間からは不名誉のかぞでつまはじきにされ

ながら、なおもスピードに挑戦。速さを追求する内、時間、空間を超越した無限なるものを見つけたジョナサンは再び群れの中へ帰って行く。雄大な写真を添え、パイロットであった著者が、かもめに託し、限界とは何か、自由とは何かを語りかける、肩のこらない寓話の世界を展開してくれる。



リチャード・バック著  
五木寛之訳  
新潮社 600円

## 山陰の武将

歴史、そこにはあまたの人々の息づきがある。

山陰の地に、日本の歴史と不即不離の関係で激しく生命を燃した多くの武将がいる。戦乱期の中で、傷つき、悩み、時には喜びにふるえ、雄々しく進んだ己れの生きざまを、歴史のキャンパスにたたきつけた武将達。ころごし半ばで倒れた人、達観の境地へ入り得た人、功なりとげた人、これら武将の姿を確実な歴史的資料をもとに、郷土の歴史家がリアルに描きだした「山陰の武将」。読みやすく、現代に生きる我々にも、多くの示唆を与えずにはおかない。表紙を飾る、馬に乗りまさに駆けんとする武将の姿。そのバックの朱色を、暁の日の出とを感じるか、落日の夕日とみるか、それは、一読された読者の心に、

浮ぶことだろう。集録の武将は、名和長年、塩谷高貞、三隅兼連、尼子経久、山中鹿介、坂崎出羽守、堀尾吉晴  
藤岡大拙・藤沢秀晴共著  
山陰中央新報社 1,800円

## どの本よもうかな?

日本子どもの本研究会が、子どもの本を、ジャンル・グレイド別に 986冊を選び出して、それぞれについて

内容を紹介し、あわせて、選択の基準、評価を述べている。図書館、学校、文庫等での図書の手助けとなろう。児童図書は年間約2,400点発行されているが、中には子どもにおもねた作品や、作者の芸術性が目立ち、いわゆる大人の趣味的な本が店頭に目立ち始めてきた。これは、一般書の「大人好み」のメルヘン、調が移行したとも考えられるが、児童書の受け手は、何といたっても子どもであるという原点を忘れてはならない。

児童作家は、児童本が好きだから書き、発行所の社長は、児童本が好きだから造る。できあがった本を、子どもが読み、さまざまなイメージを描き心をふくらませ、ひいては想像力をも育てることになる。そこで我々には、子どもが、無邪気に、素朴に喜ぶ本を選定して与える義務がある。

日本子どもの本研究会編  
風濤社 1,450円

# 秋の読書週間

10月27日～11月9日

もうすぐ

## 湖陵町大池公民館長

本の好きな人が本を読むことはごく当たり前のことであるが、本の好きな人でも仕事の関係や読もうと思う本がなく読めないことも多い。そしてまた本には全く無縁という人もいます。私達の公民館ではこのような人達にいかにしたら1冊でも多くの本を読んでもらうことができるか、また読書に興味をもってもらえることができるかということが大切な仕事の一つになっている。このような目的と青少年健全育成の立場から6年前公民館文庫を設置した。昨年までは主として子ども達を対象としたため、彼等には自分達の文庫であるという自覚から利用数も多く、しかも年々その数は増している。だが今一つさびしいのは利用者の固定化であり、層を広げることが悩みの種である。

そのため子ども達にはもとより、父兄にもPTA等の会合で利用をすすめている。そして本年度は子ども会で文庫当番を決め、本に興味のない子ども達にも必ず世話をさせるようにし、文庫に行つて本を



## 三原昭司

手にすることにより少しでも興味をもたせるようにした。

また過去、子ども中心の本が多かった関係で一般(大人)の利用は少なかったが、本年度からは一般への利用に重点をおくことにした。その対策として県の巡回文庫(しまね号)の巡回の際、地区三百数十戸にその来館を知らせ利用を呼びかけた。また地区で行うあらゆる会合で機会をとらえ、そのPRにつとめている。その甲斐あってかわずかではあるが、利用者がふえる傾向にある。

過去一般の利用について言えば婦人が多く、本の内容も家庭百科的なものが多かったが、これからは男の方にも大いに利用してもらい、内容的にも幅広くなればと思っています。そしてこれからは、内容

を生かした活動(討論会・研究会)を通しより一層読書熱を高めたいと考えている。

要は、子ども達と地区民の精神的な潤いの一助となるよう今後も活動を続けたい。

## 江津市公民図書館 婦人教室

おくれげながら江津市にも待望の図書館ができました。それを契機に図書館婦人教室が開設され、若い人たちの仲間入りをして私も生徒の一人になりました。五十名が十人づつのグループになり県立図書館から廻していただく本を毎月一冊読み上げて感想を話し合いながら読むことの指導をしていただくのです。

その昔、私も学生時代には「地上」とか「大地」「風と共に去りぬ」などのぼせて読んだものでした。寄宿舎で、黙学時間に巡回の舎監の先生に見つかって叱られたこともあり。卒業した当時は「キューリー夫人」をむさぼり読んだ思い出もあります。年とった今、とかくテレビを見るくせがついて、新聞をみるのがやっとなという仕末ですから、せめて図書館教室で無理して努力しても月に、一・二冊の本を読ませていただくことはうれしいことです。

第一回は志賀直哉の「暗夜行路」を読みました。昨秋、大山に遊んでたまたま蓮浄院で精進料理をいただいたことがありました。その時床の間の槩にこ

## 千代延 秀

のお寺は〇〇年前に志賀直哉が「暗夜行路」を書き終えるため幾日も滞在したということが書いてありました。以来読んでみたいと思っていたものでしたから、とびついて読みはじめました。ところが何分26年間、修正を重ねて完成された大作だけに、それに活字は細かいし、少々古典を思わせるような時代感もあり、はじめの方はうんざりするようなところもありましたが読むうちに主人公謙作は作者その人ではあるまいかと想像したり、細かい神経のくぼり方は潔癖感に溢れた人柄を偲ばせ、時には驚くほどの洞察力で今の時代を予測したかのようなところもあり面白くなって最後まで読みあげました。でも二週間かかりました。第2回は文学散歩で鯉の町津和野を訪ねて楽しい一日でした。次は「恍惚の人」です。これは一度読んでいますが、もう一度読んで「美しき老後」について語りたいと思っています。いつまでも若く生きることを願って、読むこと、語ること、そして歩いて訪ねることをグループとともに読みたいと思っています。

# 古文書係できる

## 古文書係設置の意義

古文書というとき、それは多くの場合、近代以前の文書をさす。だが実際には本県では、近世以前、すなわち古代中世の文書は極めて少なく、古文書の大部分は近世文書（江戸時代）である。全国的にみて近世文書は、それ以前のものに比べて、飛躍的に数を増す。本県においても例外でなく、県下各地に存在する近世古文書は、数十万点に及ぶと思われる。

これらの古文書が、わが郷土の歴史を研究するにあたって、なにもまして重要な資料であることは

言をまたない。

次に、明治維新以降、諸官庁より発せられた文書を、近代行政資料といっているが、これとても、百年を経過した現在では貴重な歴史研究の素材となっている。

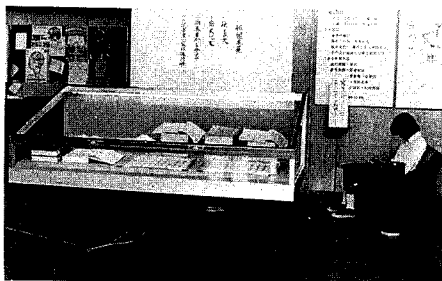
ところが、近時本県では、開発と過疎の波をかぶり、文化財は日に日に消え行く危険にさらされるようになった。古文書もそういった傾向の中で、散佚したり、反古として捨てられるおそれが十分にある。一刻も早く古文書の保存対策が必要となった。

古文書係は、かかる状況のもとで新設されたものであり、その意義は極めて大きなものがある。

## 古文書係の業務

古文書係は、係長(兼)1、司書補1、嘱託(古文書読解力を十分有する者)2、補助1の計5名でスタートしたが、当面の業務内容は次のごとくである。

- (1)当館に所蔵されている文書(約1万点)の整理、分類作業
- (2)上記の文書の内、御徒文書59冊は、松江藩の藩政史研究に特に重要なので、古文書読解力を十分有しない人々にも利用できるよう、原稿用紙にひき写す。
- (3)古文書、近代行政資料の散佚を防ぐため、その所在調査を積極的にすすめる。そのため、あらゆる機会をとらえ、情報を収集する。具体的には、県下の郷土史家、市町村教委にあまっている。



- (4)県下の個人の家、又は施設に所蔵されていて、管理に不安のあるような古文書については、設備の整った当館へ、寄贈あるいは寄託してもらうよう

積極的にはたらきかける。  
(5)古文書の重要性を、できるだけ多くの人に認識してもらうため、PRにつとめる。当館では昭和44年以来、毎月「古文書を読む会」を開き、多数の受講生をもって、これに触発されて、県内各地に同種の会ができて

いる。当係としては、こうした会の育成につとめ、講師として出かけたり、テキストの斡施等を行なっている。なお県内には、現在のところ15カ所で「古文書を読む会」を開かれている。

## 設置半年後の現況

- (1)市町村の史誌編纂係より、古文書の整理取扱法、

解説法等についての問い合わせがしきりにある。

- (2)個人で古文書を持参し、その読み方、意味等についてたずねるケースが多くなった。

## 寄贈図書

ご惠贈ありがとうございます。

| 図書名                     | 住所  | 氏名    |
|-------------------------|-----|-------|
| 詩集「不等号」                 | 松江市 | 田村のり子 |
| 能義郡伯太川における水利慣行          | 〃   | 桜木 保  |
| 藤岡雄市考                   |     | 佐野正巳  |
| 米子図書館古文書を読む会90回の歩み、あしあと | 米子市 | 畠中 弘  |
| 将門記、真福寺本評釈              | 松江市 | 木幡 修介 |

|           |     |       |
|-----------|-----|-------|
| 邑智郡昔話資料目録 | 江津市 | 森脇 太一 |
| 日本神話の基盤   | 松江市 | 青戸堅磐磨 |
| 松江湖北農協誌   | 松江市 | 山根貞之助 |
| 島根の人物農協史  |     |       |
| 日本農民史     |     |       |
| 戦国尼子実記    | 東京都 | 佐川 守利 |
| 島根県和算家事蹟  | 横田町 | 安部 憲吉 |
| 乙立史       | 平田市 | 美多 実  |
| 松平直政直筆消息  | 大田市 | 竹下 家蔵 |
| 近代絵画の見かた  | 松江市 | 松本 由治 |